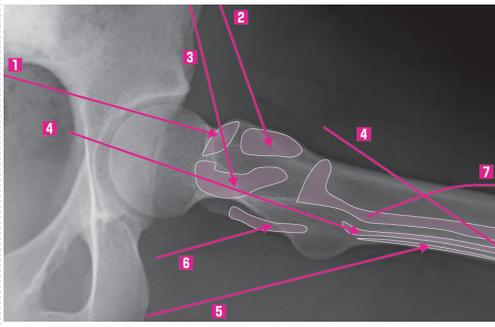
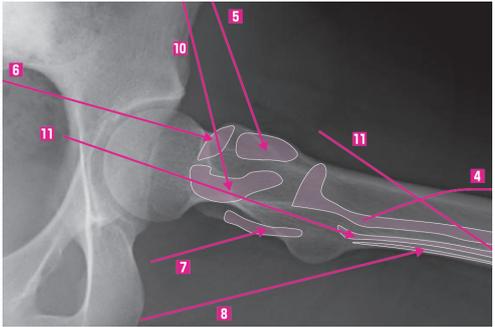


## 『運動療法に役立つ 単純X線像の読み方』 正誤表

『運動療法に役立つ 単純X線像の読み方』（2011年12月20日 第1版第2刷）に誤りがございました。ここに深くお詫びし、訂正申し上げます。

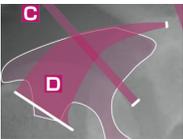
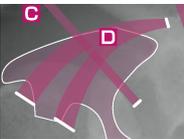
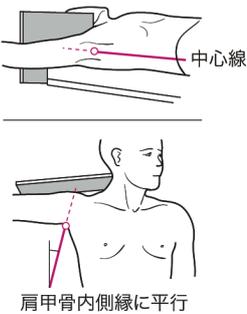
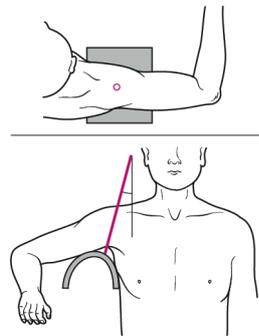
(2011年12月27日 メジカルビュー社編集部)

ページ	行	誤	正
p.90	■部位名称	⑫外側上顆 ⑬内側上顆	⑫内側上顆 ⑬外側上顆
p.169	■筋の付着・走行		
		[1]→[6], [2]→[5], [3]→[10], [4]→[11], [5]→[8], [6]→[7], [7]→[4]	
p.308	■特徴 5行目	2つの山は外側が高い	2つの山は内側が高い
p.309	④尺骨骨幹部 2行目	対してやや内側に	対してやや外側に
p.320	②大腿骨顆部 3行目	外側よりとがっている。	外側よりやや大きい。
p.334	⑮FTA		

『運動療法に役立つ 単純X線像の読み方』正誤表

『運動療法に役立つ 単純X線像の読み方』（2011年9月10日 第1版第1刷）に誤りがございました。ここに深くお詫びし、訂正申し上げます。

(2011年12月8日 メジカルビュー社編集部)

ページ	行	誤	正
xii	下から4行目	OTAの分類	AOの分類
xviii	IP VISI	interpharyngeal volarflexion	interpharangeal volar
p.33	図1 D		
p.34	4行目	生理的な距腿関節の運動	生理的な運動
p.40	右段3行目	転子部骨折	転子間骨折
p.45	図9 左：	CHSを施行	r-nailを施行
p.49	■靭帯・関節包 D		
p.55	■靭帯・関節包 左図A		
	■靭帯・関節包 右図A		
p.56	撮影肢位		
p.88	左段1行目	上腕は内旋位	肩関節は内旋位
p.90	主画像、■部位名称		左右反転
p.91	■筋の付着・走行 (2点)		左右反転
p.92	■靭帯・関節包 右図		左右反転
p.93	2行目・8行目	45°前方	30°~45°前方
p.104	主画像	前後像 側面像	側面像 前後像
p.116	2行目	stage 3：上腕骨の	stage c：上腕骨の
p.126	タイトルほか計4カ所	後前像	前後像
p.127	■靭帯・関節包 1行目	B 背側橈骨尺骨靭帯 尺骨輪状靭帯B	B 橈骨尺骨靭帯 橈骨尺骨靭帯B
p.128	■筋の付着・走行 (2点)		左右反転
p.131	■筋の付着・走行 (2点)		左右反転
p.147	図3-4	1 円回内筋	1 方形回内筋

ページ	行	誤	正
p.148	右段3行目	尺骨 <b>形</b> 状突起	尺骨 <b>茎</b> 状突起
p.149	左段下から9行目	volar <b>flexion</b>	volar
p.154	左段下から1行目	側 <b>庖</b> 転位	側 <b>方</b> 転位
p.156	左上画像 ■どう見る	<b>前後</b> 像 左： 中： 右：	<b>後前</b> 像 左上： 右上： 左下：
p.181	4行目	<b>上</b> は小転子部の	<b>下</b> は小転子部の
p.182	■どう見る	<b>上：</b> <b>下：</b>	<b>下：</b> <b>上：</b>
p.183	図4-11	骨折線は <b>腱梁</b> で	骨折線は <b>明瞭</b> で
p.186	下から6行目	萎縮あるいは <b>漸</b> 弱化	萎縮あるいは <b>脆</b> 弱化
p.188	1行目	大腿骨転子 <b>部</b> 骨折	大腿骨転子 <b>間</b> 骨折
p.189	主画像 上図		
	主画像 下図		左右反転
p.190	図4-16		左右反転
p.194	主画像 上図		左右反転
p.195	図4-18		左右反転
p.201	図5-1	大腿骨の外 <b>反</b>	大腿骨の外 <b>彎</b>
p.226	主画像 下段左・中		左右反転
p.227	右段3行目 図6-4	外側膝蓋 <b>支</b> 帯 B <b>内側</b> 大腿膝蓋 <b>支</b> 帯	外側膝蓋 <b>大</b> 腿 <b>韌</b> 帯 B <b>外側</b> 膝蓋 <b>大</b> 腿 <b>韌</b> 帯
p.244	■部位名称⑭ (図中・説明)		削除
p.259	■筋の付着・走行	1 短趾 <b>屈</b> 筋 2 短母趾 <b>屈</b> 筋	1 短趾 <b>伸</b> 筋 2 短母趾 <b>伸</b> 筋
p.269	右段6行目	代わりに <b>生</b> じ <b>韌</b> 帯	代わりに <b>踵</b> 腓 <b>韌</b> 帯
p.277	右段下から2行目	やはり <b>距</b> 腿間 <b>は</b>	やはり <b>脛</b> 腓間 <b>は</b>
p.279	右段1行目	<b>長</b> 大に背屈	<b>最</b> 大に背屈
p.294	■症例	損傷 <b>が</b> ない	損傷 <b>が</b> ある
p.299-300	図8-35説明文		p.299 「■どう見る 右：」の説明文の続きとする
p.307	④肩甲骨 1行目	後内側に約 <b>45°</b>	後内側に約 <b>40°</b>
p.315	⑤月状骨 簡条書き2~4	・月状骨と~並び、 <b>中</b> 手骨 <b>につ</b> な <b>がる</b> 。	削除
p.332	⑤	carrying angle : <b>160°</b> 	carrying angle : <b>5°~15°</b> 
p.334	⑰距骨滑車の角度	<b>125°</b>	<b>140°</b>
	⑲ペーラー角	<b>28°</b>	<b>20°~40°</b>